

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772201832		
法人名	和田建設株式会社		
事業所名	グループホーム 田島サンライフ (2階)		
所在地	大阪府大阪市生野区田島4-3-2		
自己評価作成日	平成26年2月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、ご入居者様一人ひとりが、「その方らしい」毎日を過ごして頂ける事を目指し、ご入居者様ご自身の、その時々「思い」に出来る限りお応えさせていただけるようご支援させていただいております。
また、お食事も家庭的な雰囲気の中、ご入居者様とスタッフが、一緒にメニューを決めたり、作ったりしております。そして、当施設の自慢の一つでもある屋上は、ご入居者様と一緒に散歩をしたり、草花・野菜の苗植えや収穫等を楽しんだり、時には地域の方々やご家族様との団楽の場にも活用しております。

法人代表は長年地元で竹屋業を営み、民生委員として地域福祉に活躍している祖父の姿に、自らも社会貢献をして行きたいと、高齢者の多くなった当地において9年前にグループホーム田島サンライフを設立した。当初より婦人会や地域住民との良好な関係が保たれ、「自立を目指し生活リハビリを中心とし入居者様一人ひとりがその人らしい生活を送れるように支援し、ご家族・地域の方々お気軽に相談・利用できる開かれた施設を目指す。」との理念を掲げ、秋祭りには自慢の屋上で、吹奏楽団・鳴子踊り等のボランティアや地域住民の参加を受け盛大に開催され良好な地域交流の維持が続けられている。散歩や調理の手伝い等利用者のその人らしい穏やかな日常の支援を、多くの若い世代の職員で日々熱意を持って取り組んでいる。

20

dai		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、スタッフと申し送りやカンファレンスを通して、理念の共有と認識を深めながら、利用者様に実践していくようにしている。	職員と話し合い決めた理念を、フロアー会議や申し送り時に確認し共有認識を持ち、職員が楽しんで取り組む事で理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と一緒に近所へ買い物や散歩へ出来る限り毎日行けるようにしている。	自治会に加入し、ふれあい喫茶にでかけたり、毎日の散歩や近隣店舗での買い物等で日々地域交流を深め、吹奏楽団や鳴子踊りのボランティアの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どんな些細な事でも相談にのり、施設見学も随時受付対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様にも出席して頂き、二か月に一回開催しており、施設での現状を報告し、その場で頂いた意見を活かし、サービス向上に努めている。	2か月に1度自治会長・地域包括支援センター・家族等が参加して開催され、施設の現状報告や意見を聞き、情報の提供を受ける等、施設の取り組みの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の訪問等には、施設での取り組みや、利用者様の状況などを伝え、お互いが協力できるように努めている。	担当部署と利用者の状況を説明して、相談や助言を受けることで良好な関係が築かれている。関係書類の申請の手続きに向向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員にも研修を行い、理解を深めてもらえるよう取り組み、玄関の施錠も現時点では、リスクが大きいため、今後、利用者様の状況に考慮していくよう努める。	研修を行い理解し取り組めるように、マニュアル・資料は各自所持している。玄関前は幹線道路があり安全上施錠しているが館内を利用者は自由に行き来している。日常の散歩で閉塞感のない暮らしの取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、資料公開し、更衣・入浴時に利用者様の身体状況を確認し、把握できるよう実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は、いつでも資料を見ることができるようにしており、利用者様の中にも成年後見人制度を活用されている方も増えており、個々のニーズにあわせて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明に合わせて、利用者様や家族様には不安や疑問に対して、いつでも相談にのる旨を伝えて、理解し、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、契約書にも受付表示しており、利用者様や家族様の要望を反映できるようにしている。	家族の面会時に意見を聞くようにしているが、電話で様子を伝えたり意見を聞く事もある。昼夜連絡出来る様メールの交換で意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員には、提案や意見を口頭や文書にて、伝えるようにしてもらい、運営に反映できるよう、努めている。	フロアー会議や申し送り時に意見を聞いたり、1口メモを活用し、何時でも意見を言えるようコミュニケーションを密に保っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員登用やリーダーへの昇格等、能力に応じ役職任命して、その実績に対して、役職手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する際には、シフト調整を行い、交通費の一部負担を実施している。 また、内部研修は、1～2カ月に1回実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や勉強会には、出来る限り参加し、他事業所との情報交換等を行い、サービスの質を向上できる様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人にとっての不安や思いをアセスメントし、暫定ケアプランを作成した上で、サービス実施を行い、本人との調和を図り安心してすごしてもらえる関係作りをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様に入所申込みの時から、事前聞き取りを行い、家族様の要望を聞いた上で、支援内容をきちんと説明し、納得して頂けるよう努め、さらに要望があれば、それに応じていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをキチンとを行い、本人と家族様のニーズを確認し、暫定ケアプランを作成し、サービス導入につないでいけるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・買い物等、家事を職員と共に行う事で、共に生活をつくる関係を築いている。また、お手伝いして頂いた後には、必ず「ありがとうございます」と感謝の一言を言っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の現状を報告すると共に、面会時、外出・外食など、体調にも配慮し、共に穏やかに時間を送れるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時、ご本人の話された事がある場所を訪れるなどにより、自信と地域の関わりについて話され、支援の手がかりとしている。 「昔からお世話になった」というご近所の方が、家で採れた野菜や果物をよく持ってきて下さっていた事もある。	以前の住まいに出向いたり季節の野菜の提供を受ける事や、馴染みの美容院に通ったりして関係性の維持に努め、利用者の希望の所へ行く計画があり利用者は楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションが円滑にいこう、会話のつなぎ等の介入を行いながら、散歩やレクリエーションなど、共に行う場を提供させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば、いつでも気軽にご連絡いただけるよう、その都度、家族様にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を尊重し、実現できるよう、もしくは、それに近づけられるよう、努めている。	家族やケアマネージャーから聞き取りをし、フェイスブック等からも思いの把握に努め、日頃の話しぶりや動作等でその人らしさの支援が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中、会話や家族様からの聞き取りにより、日々情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中での状態の変化にも留意しながら、日常的に行っている行為や生活の中から、できる限り「今」の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との関わりの中で、課題やケア実施状況をモニタリングし、その都度、職員や家族様、本人の意思や思いを反映する事が出来るように努め、計画作成している。	介護計画の見直しは基本3か月に1度、実践状況表をもとにモニタリングを繰り返し家族の意見を取り入れ作成しており、変化のあった時は随時計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースへの記載、カンファレンス、申し送りのノートを活用により、情報共有しながら、変化する状態にも迅速に対応し、ケア実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	排出の希望などについては、できる限りの範囲で行い、それ以外についても、家族様との連携により、少しでもニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	転倒や事故に合わないよう、配慮しながらも、神社へ参拝しに行ったり、地域の催しや、喫茶室へ行く等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望により、入所前から通院している医師への受診の際には、ご本人の現況報告書を作成したり、付き添って行き、また、一週間に一度の内科往診等も実施している。	訪問診療(内科・歯科週1回)を行っている協力病院の受診者がほとんどだが、従来のかかりつけ医を希望する利用者は家族同行の下、受診している。事業所作成の経過報告書に記入依頼して体調把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護はいないので、計画作成者やリーダーに伝えて相談し、必要に応じてかかりつけ医に電話で相談・確認を行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリを提供しており、病院関係者とも地域の交流会や勉強会を通して、関係作りを行い、お互いの情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に変化が見られた際には、家族様に報告し、終末期が近いと医師にも言われた方に対しては、更に密に話し合い、関係者と連携をはかり、支援していく。	体調変化時に家族に連絡し、意向や希望を聞き取り、現状に即した支援を心掛けている。今迄1件の見取り経験があるが、重度化・終末期の指針文書は作成していない。	事業所の力量を把握した指針を文書化して、利用者・家族に説明と同意を得ると共に、医療機関との連携構築と職員の自己研鑽を図り、チームでの取組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成すると共に、急変に備えて、医師の連絡先も明記しており、不安な点があれば、指導を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	フロアごとの、避難誘導マニュアルを作成し、職員がいつでも見る事ができるようにしており、地域の方々とも、きずなネットの作成に携わる等、協力が得られるように努めている。	消防署立ち合いの下での訓練と事業所の自主訓練を年2回実施している。地域の協力体制のきずなネットマップの作成や、協力の呼びかけは検討中で、備蓄は水だけであり、内容に課題がある。	あらゆる場面(特に夜間)を考慮した避難計画を管理者・職員で検討した避難計画を作成し、それに沿った訓練を積み重ね、全員の意識徹底と避難経路や方法の確立を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に個人的な話をする時は、自室などにて納得されるまで丁寧に説明や傾聴を行い、普段からくだけた中にも、丁寧な言葉かけを心がけている。	言葉遣いや態度を意識しながら、一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重している。対応に問題があれば管理者が指摘して、より良いケアを目指している。個人情報書類は適切に、保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日の利用者様が「今入りたくない、○時頃が良い」とおっしゃった際等、業務上可能な場合、利用者様のご希望の時間帯に入浴して頂く等、自己決定できる様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調・気分によって、食事の延食や、入浴の順番を変えたり等、職務に縛られない、一人一人に合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色の好みや更衣の際、に選んでいただく事や、散髪時の要望を伝える支援等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めの要望や選択していただいたり、盛り付けをお手伝い頂いたり、テーブル拭き、おしぼり作り、配膳等、できる事で関わっていただくよう努めている。	メニューは利用者の好みを取り入れ、食材は生協、卸売市場、スーパーで購入して、職員が交代で調理している。配膳・下膳・洗い物等の作業を手伝いながら、職員と一緒に同じテーブルで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限がある方や、とろみ剤が必要な方など、一日の水分量、食事量を記録して把握、週1回の体重測定や医療での連携にて、栄養補助や食品の使用、好みの把握により、バランスよく、自己にて制限できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態により、口腔ウェットティッシュ、歯ブラシ、義歯洗浄剤、舌ブラシなどにより、出来る限り本人にして頂き、それ以外を介助して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴え困難な方は、排泄サイクルによる声掛けや誘導を行い、表情や別のサインによる訴えの把握に努めている。	排泄チェック表の利用や2時間毎の声掛けと夫々の水分摂取量、体調に合わせてトイレでの排泄を促している。細やかな誘導で排泄のレベルアップした事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で、体を動かす事ができるよう、散歩、家事などの支援及び服薬によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を配慮し、負担の少ない日時の範囲で出来る限り希望に添えるよう、心がけている。	週2回午後入浴だが、要望の時間に依ったり、好みのシャンプー、リンスを使用したり柚子・レモン湯、入浴剤で、季節と雰囲気を楽しんでいる。拒否の場合は時間と声掛けスタッフを変更して、清拭・部分浴の入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調・希望による日中の臥床ができています。 朝も、本人が起きてこられたタイミングで、モーニングケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアに一人一人の服薬内容のカードを置き、服薬状況を把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事+レクリエーション・散歩など、それぞれに対し、提供し、その中より、楽しみや嗜好を把握するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望により、できる限り散歩に誘うよう、支援している。 外泊や遠方へは、家族様等と相談しながら、希望がかなえられるよう、働きかけをしている。	周辺地域、公園、田島神社が日常的な外出の場となっている。利用者が希望する遠方の墓参り等は家族に連絡し、要望に添えるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、所持して頂き、安心していただけるよう、努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりかけられたり、電話口に出られる事があり、遠方の家族様などにも、訪問時に働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔につとめ、季節ごとに四季を感じられる飾り付けなどを行っている。	浴室、トイレ、廊下は明るく清潔である。居間兼食堂は広く採光も良く、壁面に行事写真、サンライフ新聞、書道の作品を掲示したり、職員手作りの布製カレンダーで季節感を取り入れている。テレビの前にソファを配置して団欒と面接の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、自席(食事テーブル)等、その時いたい場所に居て頂ける配慮を行っている。 テレビが好きな方には、テレビの方向を向いたお席で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの生活で、使用されていたたんすや仏壇等、大切にされていたものを、持ってきて頂き、設置して生活して頂いている。 また、趣味に関しては、可能な範囲で毛糸等は持ってきて頂き、裁縫セット等、危険な物に関しては、裁縫時のみ、スタッフ見守りで使用して頂けるようにしている。	これまでの生活様式に応じてベッドや和布団を使用したり、家具、写真、マスコット等馴染みの品を飾り、今迄の生活継続の部屋となっている。防災カーテン、スプリンクラー、呼び出しブザーを設置して安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できる事」を見つけ、その中からやりがいや達成感を感じてもらい、自立支援に努めている。		